

## 清飲「社会課題対応研究会」重点項目発表

## PET軽量化、納品時賞味期限の緩和を目指す



B.F. ジヤバ  
ン生産・S.C.  
M 本部長(写  
眞上・右)は  
今後の検討  
テーマとし  
て、①更なる  
物流負荷改善  
②納品時賞味  
(製造ロット  
の逆転)  
期限の緩和  
の軽量化 ④  
容器包装資材  
の効率化 ⑤

社が事前にオンラインで予約する「ベース予約システム」についても、よりバリューチェーン全体で有効活用できるよう物流パートナー企業や納品先への協力を得ながら推進する方法を模索したい」。  
②は賞味期間の長い清涼飲料に応じて、現行の納品ルール緩和を促すことで、製造ロット適合のために行つている輸送と、店頭に並ぶ前段階で発生している食品ロスの削減を目指す。製造、流通、小売り全体で物流2024年問題、食品ロス問題の改善に寄

者に対するWeb調査を実施した。

「調査の結果、賞味期限を気にする消費者の割合は日配品で約6～8割だが、PET缶飲料は期限表示のないアイスと同程度の少ない割合だった（同下）。PET飲料については『購入経験のある賞味期限が1年1カ月後の商品』と、『賞味期限が1年後年の同じ商品』を同じ店舗で見つけた場合も、86・5%が気にせずに後者を『購入する』と回答した。のことから消費者の購買行動に与える影響は限定的と推察される」。

| 購入するとき  | 牛乳   | 魚    | 肉  |
|---------|------|------|----|
| (5段階評価) |      |      |    |
| 80%     |      |      |    |
| 60%     |      |      |    |
| 40%     | 50.7 | 44.3 | 41 |
| 20%     |      |      |    |
| 0%      |      |      |    |

(5)はサプライヤー企業の建物に設置された太陽光パネルで発電された電力のうち、サプライヤー企業側が自家消費しない余剰電力分の非化石証書の購入が可能になる新たなスキームの構築を検討する。すでに賛同、前向きに検討する姿勢の3社4拠点で実施した場合の概算値は、期待余剰電力量は約52万kWh、期待GHG排出削減量は約1600トンになる。

なお、再エネ利用促進テーマでは研究会の枠組みを超えてサッポロビールも参加。

清涼飲料主要メーカー5社による「社会課題対応研究会」はこのほど、飲料業界における今後の重点検討項目発表会を T O D A H A L L & C O N F E R E N C E (東京・中央区)で実施。

方針を明かした。  
参加するメーカーはアサヒ飲料、伊藤園、キリンビバレッジ、コカ・コーラボトラーズジャパン、サントリーフードインターなど。24年11月の発足以来、物流2024年問題、GHG排出量削減、食品ロス問題といった飲料業界の抱える社会課題に協働で対応している。

サプライヤー企業との再エネ利用の促進——を掲げた。  
①はこれまで同業他社や異業種企業と往復輸送や共同配送を実施。納品先でのドライバーの待機時間は5社計平均で約40%削減された。ドライバーが運転業務以外に取り組む積み下ろしや検品などの荷役作業発生件数も、5社計平均で約30%削減している。今後も輸配送や、倉庫での物流負荷軽減策を検討していく。

「製配販の取引では製造ロットの逆転が起きないよう、ロットに合わせた輸送が行われている。しかし、輸送が滞った場合は商品が店頭に並ぶ前段階で食品ロスが発生する。ドライバー不足も重なり、このままでは配送への影響は避けられない」。

こうした状況下で、研究会は納品時賞味期限の緩和を提言していく。先駆けて、研究

| 商品               | 割合 (%) |
|------------------|--------|
| 乳製品<br>(ヨーグルトなど) | 37.2   |
| お弁当              | 34.0   |
| 豆腐               | 33.7   |
| パン               | 32.1   |
| 納豆               | 28.6   |
| （豚）肉<br>（ハムなど）   | 21.6   |
| レトルト食品           | 5.3    |
| 菓子               | 5.2    |
| 茶葉               | 4.5    |
| 冷凍食品             | 4.4    |
| 缶詰               | 4.1    |
| ペットボトル飲料         | 3.7    |
| アイスクリー...ム       | 3.7    |
| 缶飲料              | 3.6    |

みんなで集まつて、明るい  
陽射しの下でフレッシュな  
ワインを楽しむのもヌーボー  
のよさ。昨年実施した

ところ非常に好評  
で、さらに進化・  
伝えていきたい」。

たったの  
強化して  
ト・若槻千夏（同左）が就  
任し、「飲んだときにはド  
ウ感がある。パッケージが  
ポップでかわいらしい」な

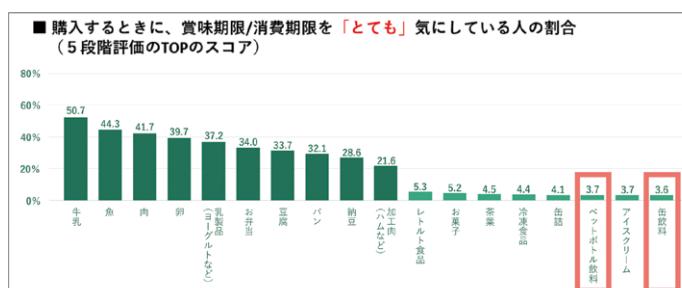
どとコメントした。

同社の「ボジョレー・ヌーヴォー」は約3万7000箱（前年比98%）／約54万本（102%）、「コ

ランス産輸入新酒ワイン  
は約3万8000箱(97%  
／約57万1000本(100%  
1%)。価格は「ボジョレ、

ヌーヴォー 2025」(7  
50mℓ)が2960円、「同」  
(375mℓ)が1630円  
(税別)。

検討を始める



検討を始める。

今後、取り組みの趣旨に賛同する農林水産省との情報交換や、流通企業と日付逆転品の納入受人に向けた運用テスト、店頭調査など、より具体的な活動を実施していくことを明らかにした。

(3)は欧洲を中心に広く使用されている軽量化ボトル・キャップ規格を土台に、5社による日本独自の品質とユザビリティを確保した新しい統一規格の研究開発と導入の

しない余剰電力分の非化石証書の購入が可能になる新たなスキームの構築を検討する。すでに賛同、前向きに検討する姿勢の3社4拠点で実施した場合の概算値は、期待余剰電力量は約52万kWh、期待GHG排出削減量は約1600トンになる。

なお、再エネ利用促進テーマでは研究会の枠組みを超えてサッポロビールも参加。

1